



# 活力ある秋田 Vol.45

## なぜ、 秋田を引きずる…？

〔秋田市観光クチコミ大使〕(株)JTB関東 取締役総務部長 石森 隆氏

雲一つない冬晴れの下、この原稿を書いています。雪舞う秋田の街を思いながら…。

転勤族は、ある程度の割り切りを持って、新天地に臨まなければならないと思っていますが、未だ秋田を“引きずっている”。なぜなんだろう？この機会にちょっと考えてみました。

9月29日、浅草ビューホテルで秋田市観光クチコミ大使委嘱式が開催され、栄えある大使の一人に就任させていただきました。懐かしさもあってか、晴れやかで和やかな雰囲気になり、満ち溢れた委嘱式でした。正面に臨む東京スカイツリーがなければ、ここは川反かと錯覚しつつも、これだけの秋田ファンが県外におり、強い思いを秋田に寄せているんだと改めて認識しました。

3年間、秋田にお世話になりましたが、東日本大震災もあり、旅行業界にとって順風満帆ではなく、商売的には厳しい3年間だったと思います。それでも、私が秋田を“引きずっている”魅力とは何なのでしょう。

地域が人を魅了する要素は2つあると思います。

ひとつは、食文化・酒・祭り・景観・歴史・気候など、地域が与えてくれるものですが、これは、多かれ少なかれ、どの地域でも持っているでしょう。

もうひとつは、自らが能動的に好きになろうと思った時、それを実現できるフィールドを地域が持っていることです。

秋田は無限のフィールドに満ち溢れています。例えば、沖縄はスキーに行くにも時間やお金がかかります。北海道ではマリンスポーツは厳しいでしょう。東京都内ではちょっと温泉でも一足伸ばさなければなりません。銀座界隈で一級の素材の食やお酒を嗜むには敷居が高いものがあります。しかし、秋田では、自ら手を伸ばせばいつでも何でも手に入ります。これが、私を“引きずらせている”のでしょう。

今、新入社員を採用し、送り出す立場にあります。全く縁もゆかりもない地域に配属され、不安だらけの社員にはこのように言って送り出しています。

「まずは地域を知ること、好きになること、そしてその良さをクチコミとしてアピールすること」。

秋田の皆さんも、ぜひ、自信を持って自慢して、秋田ファンをつくってください。

最後に、第一印象は大切です。駅や空港では秋田の民謡や歌謡曲で出迎える、各運輸機関にご協力いただけるのであれば、到着時に音楽や一言メッセージを添えて頂くなど、ぜひ実現していただきたいと思います。

私もクチコミ大使として、秋田を自慢します。いつまでも“引きずらせて”ください。遠き関東の地から精一杯応援します。



秋田キャラバン隊が来社しました

- 略歴 1958年生まれ 宮城県出身  
1982年 東北大学理学部卒業  
1982年 日本交通公社(現JTB)入社  
福岡県・東京都・埼玉県・福島県・宮城県の本社・営業本部・支店勤務を経て、2009年から3年間、執行役員秋田支店長として勤務  
2012年2月より現職
- 所在地 さいたま市中央区新都心11-2 LAタワー 16階